

## b 身体的依存

薬物投与の中断により、手の振戦（ふるえ）、発汗、頻脈、不快感など身体的症状を示す**禁断症状（離脱症状）**が生じる。

薬物の併用に  
起因する現象

薬物を併用したとき、それぞれの薬物を単独で用いた場合よりも効果が増加する場合（協力作用）や減弱する場合（拮抗作用）がある（p.47 参照）。

## 3 服薬遵守の差

処方された薬物は正しく使われてはじめて有効なものとなる。医師、歯科医師、薬剤師などの医療従事者が患者に薬物の正しい使い方を説明することを服薬指導といい、患者がその指示通りに服薬することを服薬遵守という。服薬遵守の差によっても薬物の作用の現れ方は変わってくる。

## 服薬遵守

患者が処方薬を医療従事者の指示通りに服用することをコンプライアンス（服薬遵守）が良いという。しかし、近年、「治療は医師の指示に従う（コンプライアンス）」という考えから、「患者が治療方針に賛同し積極的に治療を受ける（アドヒアランス）」という考え方に変わってきた。医師と患者が十分にインフォームドコンセントを行い、患者が納得したうえで服薬が行われることで、アドヒアランスは向上する。アドヒアランスが低下すると薬効の低下や副作用の増加などが問題となる。抗菌薬においては耐性菌出現のリスクが高まる。


表 6-3 おもな添付文書記載事項

1. 警告	10.2 併用注意(併用に注意すること)
2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)	11. 副作用
3. 組成・性状	11.1 重大な副作用
3.1 組成	11.2 その他の副作用
3.2 製剤の性状	12. 臨床検査結果に及ぼす影響
4. 効能又は効果	13. 過量投与
5. 効能又は効果に関連する注意	14. 適用上の注意
6. 用法及び用量	15. その他の注意
7. 用法及び用量に関連する注意	15.1 臨床使用に基づく情報
8. 重要な基本的注意	15.2 非臨床試験に基づく情報
9. 特定の背景を有する患者に関する注意	16. 薬物動態
9.1 合併症・既往歴等のある患者	17. 臨床成績
9.2 腎機能障害患者	18. 薬効薬理
9.3 肝機能障害患者	19. 有効成分に関する理化学的知見
9.4 生殖能を有する者	20. 取扱い上の注意
9.5 妊婦	21. 承認条件
9.6 授乳婦	22. 包装
9.7 小児等	23. 主要文献
9.8 高齢者	24. 文献請求先及び問い合わせ先
10. 相互作用	25. 保険給付上の注意
10.1 併用禁忌(併用しないこと)	26. 製造販売業者等

## 医薬品情報

医薬品の添付文書には医薬品を安全かつ適正に使用するための医療従事者向けの情報が書かれている。2017（平成 29）年の添付文書記載要領の改定に伴い「原則禁忌」、「慎重投与」は廃止され、現在その内容は「特定の背景を有する患者に関する注意」に記載されている。表 6-3 に現在の添付文書記載事項を示す。一方、患者向けの医薬品情報は、医薬品医療機器総合機構（PMDA）がインターネット（医薬品医療機器情報提供ホームページ）で公開している。患者への医薬品の情報提供は、服薬遵守において重要である。

## 復習 ○ ×

- 
- 1. 一般に、小児は成人に比べて薬物の作用が強く発現する。
  - 2. 小児の薬用量は、体表面積に基づいて算出するのがよい。
  - 3. 高齢者は、いくつかの疾患が合併し、複数の薬物を併用していることがある。
  - 4. 男性と女性で薬物感受性に差が出ることがある。
  - 5. 高齢者では加齢に伴い肝機能や腎機能が低下しているため、薬物の効果が減弱する。
  - 6. 高齢者では投与された薬物の半減期は延長する。
  - 7. 妊婦へのテトラサイクリン系抗菌薬の投与により胎児の歯に着色を起こすことがある。
  - 8. 妊婦への酸性非ステロイド性抗炎症薬の投与により胎児が死亡する危険がある。
  - 9. 薬物の効果は、病的状態に影響を受けることがある。
  - 10. 肝臓や腎臓に疾患があると、薬物の作用時間が延長することがある。
  - 11. 偽薬により出現する薬理学的効果をプラセボ効果という。
  - 12. 薬物の効果は、遺伝的体質に左右されることがある。
  - 13. 処方せんに「食間」と記載されている場合には、薬物は食事中に服用する。
  - 14. 食後とは、食事の 30～60 分後をさす。
  - 15. 薬物の投与時間は薬効に影響しない。
  - 16. モルヒネ塩酸塩水和物には身体依存がある。
  - 17. コカイン塩酸塩は、精神依存を示すが、身体依存は示さない。
  - 18. 薬物の連用により現れる現象として、蓄積、耐性、依存などがある。
  - 19. タキフィラキシーは、薬物の併用によって現れる現象である。
  - 20. 同一の薬物を連用することにより耐性を生じることがある。
  - 21. 高齢者では認知機能の低下によりアドヒアランスも低下する。
  - 22. アドヒアランスの低下により副作用のリスクも低下する。
  - 23. 患者が服薬の必要性を理解することは、アドヒアランスの向上につながる。
  - 24. 医薬品の添付文書は患者向けに書かれている。

## Answer

1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○ 5. × (効果が増強する) 6. ○ 7. ○ 8. ○ 9. ○ 10. ○  
11. ○ 12. ○ 13. × (食事と食事のあいだ) 14. ○ 15. × (影響を与える) 16. ○ 17. ○  
18. ○ 19. × (連用) 20. ○ 21. ○ 22. × (リスクが上昇する) 23. ○ 24. × (医療従事者向け)